

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念があり、見やすい所に掲げている。理念を共有し、日々心において実践を取り組んでいる。	理念を玄関や事務所に掲示し、職員への意識付けとともに家族や訪問者等に事業所の方針として明示している。毎月のスタッフ会議や毎日の申し送り時に確認し合い、日々のケアの中で実践し振り返りの機会を設けている。職員は地域密着型サービスの意義や事業所の役割を理解している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設での行事の際は、地域の方に呼び掛け交流を図っている。	住宅地から離れた高台にホームがあり日常的に地域と関われないため、餅つき大会やお花見会、開設記念祭などの併設施設合同の行事の時に地域ボランティアを受け入れている。小学校の音楽会に招待され出かけて行ったり、隣接のデイサービスでの知人の利用日に会いに行くなど積極的に関わりを持つよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	にしうち敬老園としては要請がないので実施していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況や、活動報告を毎回行っている。	家族や地域代表者、医療従事者、市担当者などを迎えて3ヶ月毎に開催している。直近の会議では消防署員から防災に関する説明を聞き、事業所の防災体制を含めた質問や意見交換が活発に行なわれた。毎回の会議で参加者から頂いた意見や助言等は皆で話し合いサービス向上に活かしている。	会議を概ね2ヶ月毎、開催できるように、そして毎回議題を決めて更に有意義な話し合いが行なわれるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者と連携を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。	毎年、市介護保険課の担当者が入居者の様子を見に来訪している。また、介護保険情報はメールで届いている。認定更新の際には市や他市町村の担当窓口を訪ねて入居者の様子を伝えている。2ヶ月毎、介護相談員の訪問を受け入れており、市担当部署とは様々な機会を通し連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会をしたり、ミーティングをして職員の共有知識を図っている。一人ひとりの居場所を確認している為、日中は玄関のテンキーロックを極力切るようにしている。	全職員は身体拘束その他入居者の行動を制限する行為の具体的な内容や弊害について学んでいる。法人内の身体拘束ゼロ委員会があり事業所から委員が参加し拘束のない生活に取り組んでいる。玄関に関しては入居者の様子を見ながら職員間で話し合った上で一時的に施錠している。	玄関の施錠も拘束の具体的な行為に含まれています。経過観察記録や検討記録を残すことを望みます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の勉強会を行い、高齢者虐待の徹底防止に努めている。		

グループホームにうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見制度についての資料をファイルし、読み合わせを行っている。又、学習会も参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明等詳しく行い、納得した上で契約の手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は、介護相談員が来園されており、1対1で話を聞いてもらっている。ご家族は、面会時、または電話にて利用者の状況を伝えている。また、グループホーム便りを発行して暮らしぶりを伝えている。出された意見、要望はミーティングで話し合い反映させている。	家族会は敬老園祭に合わせて年一回行なわれている。家族等は職員を良く知っており、意見や要望があれば直接管理者や受持ち担当職員に伝えている。毎月、担当職員は写真入で入居者の暮らしぶりや健康面などを家族に報告しており非常に喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、常に各職員の意見を聞き、運営に反映させている。	毎月の会議や申し送り時には意見や提案を聞く機会を設けている。また、管理者は現場に出ており、何時でも職員の意見や要望を聞くように努めている。職員の意見や提案は運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、向上心を持って働けるよう職場環境作りに務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に積極的に参加できるようにしている。また、法人内で年5回の基礎研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと相互訪問や、事例検討等の意見交換を行い親睦を図っている。また、活動を通じて意見をケアに取り入れサービスの質の向上に努める。		

グループホームにうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始以前に本人と面会を行い、本人自身の訴えや願いをよく聴き、受け止めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階から困っている事を聴き、安心して利用して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階では、まず本人、家族の話をしっかり聴いて、内容によっては、他のサービス活用を勧めることも考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜び等を知ること努め、共に支えあえる関係作りに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の様子や変化等は、家族に報告し共有して支援の方法、対応について意見をお聞きして、対応に反映させている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力の下、友人や家族と会ったり、家族と外泊、美容院等馴染みの場所に出かける機会を作っている。	入居後も自宅と変わらない生活が継続出来るよう馴染みの場所や友人・知人などの情報を得ているが、年々、それらの関係継続が難しくなってきた。入居者は地域の行事に出かけたり法人合同の行事で地域のボランティアと交流している。また、家族の協力もあって自宅へ帰省し、お墓参りや親族と会ったりしている入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士が交流を持てるように配慮している。孤立する事がないような、場面作りや声かけに配慮している。		

グループホームにうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば対応する。終了の際に、利用者や家族にその旨をきちんと伝えるよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望や意向を把握できるよう、日々関わりを持ち探るよう努めている。本人本位の検討を心掛けている。	入居者一人ひとりに声を掛けたり、態度や表情から思いや意向の把握に努めている。把握が困難な入居者については職員間で話し合ったり家族と相談している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、本人や家族に尋ねたりしながら、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、勤務交代の際の申し送りや記録によって情報共有し、対応を考えている。月に一度スタッフ会議を実施し、それぞれの暮らし方とそのため支援を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャー等を中心として、本人、家族、関係者の希望や意見を反映した介護計画を作成している。	本人、家族の意向を基に全職員が意見を出し合い、入居者の自立や暮らしを支援する介護計画を作成している。毎日、計画の実施状況を確認している。見直しは3ヶ月毎に行っているが、それ以外にも本人の状態に変化が生じたり、介護計画が遂行できない時には直ちに職員間で話し合い現状に即した介護計画に作り変えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細なことも個別記録に残し、その場にいなかった職員にも情報が伝わるよう努め、実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体機能の維持・向上の目的も兼ね、併設のデイサービスの体操・レクリエーションに参加して頂いている。		

グループホームにしうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	研修ボランティアや学生ボランティアを受け入れている。また、地域消防団へ協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。各医療機関からの情報は個別に記録と共に保管し皆で共有している。	敷地内にある法人の診療所が協力医療機関となっており、入居者の健康管理や緊急時等の対応を行っている。かかりつけ医や専門医の受診、通院の付き添いは家族をお願いしている。法人の訪問看護ステーションから看護師が定期的に訪問しており入居者のバイタルなど健康チェックや相談にのっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	準看護師一名を配置し、利用者の日常の健康管理に努めると共に、必要に応じて医療活用の支援をしている。週1回の訪問看護があり、相談し、連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、医療関係者と十分に情報交換をし、少しでも早期退院が出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	随時、家族・かかりつけ医と連絡を取り意見・情報交換をしている。また、状況に応じ早い段階から医師からの病状説明をお願いし、家族が安心して納得出来る最期を迎えられるよう支援している。	重度化や終末期に関する事業所の方針を契約時に本人・家族に伝えている。状態の変化を見ながら家族や主治医と相談しながら本人・家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。看取り介護に関する指針があり職員は内容を理解している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防署による救急法の勉強会を実施し、訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回にわたり、防災訓練を実施し、迅速な避難が出来るよう努めている。	防災訓練を併設施設と合同で定期的に行っている。同時に通報や避難誘導訓練、消火器の扱い方法等も学び入居者の安全に努めている。今年度は水害想定での避難訓練も行われた。敷地内には法人の施設や事業所があり災害時の協力体制が構築されている。	訓練に全入居者が参加できる方法を検討し、避難誘導訓練等を職員と共に体験されることを望みます。

グループホームにうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切に、誇りやプライバシーを確保した上で関わりを大切にしている。	一人ひとりの人格の尊重、誇りやプライバシーを損ねない声がけに努め、援助が必要な時にはさりげない対応を心がけている。馴れ合い等から好ましくない言動が出ないよう全職員で心がけている。個人情報の取り扱いや守秘義務について職員は十分認識しており周知徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を言える雰囲気作り に心掛けている。また、意思表示出来ない方には職員の言葉掛けで表情から探っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、笑顔が見られるように柔軟な心で関わり希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回外部からの理髪店の受け入れを行っており、希望者は馴染みの美容院を利用して頂いている。また、行事の時はその場に合った身なりで参加して頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に調理、味付け、盛り付け、片付け等一連の作業を行っている。	入居者一人ひとりの力量を把握している。献立は法人の管理栄養士が作成しているが、ホーム側の都合で献立を変更することができる。『今日はお客さんが見えるから』とうどんを打ち、ほうとうを作っていた。食事中はうどんの出来具合を褒めあうなど和やかな雰囲気であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考え、季節の食材をメニューに取り入れたり嗜好も配慮している。水分量も確保出来るようトロメリンやゼリー等で対応している。形態にも考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中での汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を学び、ご自分で出来る方には声掛け、見守りし、支援が必要な方には義歯を外し、口腔内の清潔に努めている。		

グループホームにしうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の必要に応じ、排泄表を作成。そのパターンに合わせて声掛け・誘導を行なっている。	入居者一人ひとりの排泄パターンや仕草を見ながら職員はさりげなく声をかけトイレでの排泄支援を行っている。排泄表に沿っての声掛けや誘導であっても失敗が目立つ場合には時間調整を行い本人にあった時間帯に切り替えている。リハパンか布パンツで身軽に気持ちよく過ごしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に向けて食事メニューを工夫している。下剤を使用する場合は、使用過多にならぬようその時の状況に合わせた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り、本人の希望に合わせて入浴出来るよう支援している。また、入浴を嫌がる利用者には安心出来るような言葉掛けの工夫をし、対応している。	お風呂には温泉が引いてあり、毎日入浴することができる。一人ひとりの希望に沿いながら支援を行っている。その時の気分や状況等で拒む入居者もいるが、時間をずらしたり声がけを工夫することで入浴できている。立位が難しい入居者の場合には職員も浴槽に入り支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕方から就寝に向けて、安心した時間の過ごし方を職員で工夫し、就寝リズムが安定するよう環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳を活用し、内容を全職員が分かるよう徹底している。また、変化等あった場合は随時記録をし、医療との連携を図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や得意な事を理解した上で、利用者が一日を充実出来るような支援をしている。また、個人の能力に合わせ、やりがいを感じて頂けるような役割を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に対し、出来る限り外出できるようにしている。また、車椅子等使用し歩行困難な方も外へ出られるよう工夫している。家族の協力もあり、定期的に外出がある。	天気の良い日には事業所の周辺や敷地内を散歩したり、個別の外出支援も家族と協力しながら行うなど出来るだけ外出の機会を設け気分転換に努めている。車椅子使用の入居者も一緒に出かけてリフレッシュしている。また、お弁当を持参してのハイキングや紅葉狩り、初詣など四季折々に合わせドライブに出かけ、自然を満喫したり時季の行事を楽しんでいる。	

グループホームにしうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの金銭管理の力量を検討し、お金を所持し、買い物の時に支払えるよう家族とも相談し取り組んでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという要望があれば、電話を貸している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾品を飾り、季節感を取り入れ、照明、材質等も温かみを感じられるものを使用している。	キッチンや事務所、居間、食堂はカウンターなどで仕切られているがワンフロアとなっている。入居者は職員と一緒に国道や里山が見えるこの場所で一日の多くの時間を過ごしている。昼食後にゆったりとしたソファや一段高い和室コーナーで横になる入居者の姿もあり、気分良く過ごしている様子を垣間見ることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者自身がくつろげる場所を確保している。(居間、日当たりの良い廊下等)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力もあり、利用者それぞれに合った居室作りに取り組んでいる。(以前から使用されている馴染みの家具や、家族の写真など)	床に畳を敷いたり、テレビや家族の写真のある居室、備え付けのクローゼットの横に使い慣れた整理ダンスが持ち込まれている居室など、本人が安心して過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、廊下には、全面手すりを備えつけ、安全な生活が送れるよう配慮している。		